



63rd IFALPA Annual Conference, Mexico City Industrial Seminar 報告

2008年4月21日 IFALPA 総会 IND セミナー

概要

- LCC(Low Cost Carrier)、Non-Union の航空会社の台頭により、労働条件の全体的低下が見られ始めた。特に米国では燃油費等の影響により、LCC などの企業破綻（今般 4 つの航空会社が破綻）も見られ始め、年金制度の切り下げ・廃止までもが見られるようになった。一部の地域を除き、産業全体として急な下り坂にさしかかっている。この流れは近い将来も多々見られるであろう。
- 米国：収益は 16% 低下(燃油費高騰により)。
- 今後の航空産業のキーワードとして、
 - 燃油：毎日のように最高値を更新している。航空用燃油はさらに精製等で原油 + \$20 かかる（今後は \$150 まで到達するという予想もある）。
 - Merger（合併）：効率化による労働条件の切り下げ、セニョリティの整理が問題となる。NW-デルタ合併という大きなニュースがあったが、他の会社も合併を検討しており、航空再編の動きは毎日のように報道されている。
 - Alliance（アライアンス）：現在の航空マーケットは、Star Alliance Sky Team oneworld の順で各々 20% 前後のシェア、40% 弱がアライアンス非加盟で競合している。
 - 環境対策：この 10 年で機材性能により燃費は 20% 向上した。また、ATC（空域等）の改善により燃費改善が図られ、CO₂ 排出に関しては約 12% 削減される。

乗員不足は深刻

- 乗員需要：今後 20 年で、19000 人/年 が必要。アジアでは今後 10 年で 6000 人/年 必要となり、そのうち約 2000 人/年 が中国、900 人/年 がインドで必要とされる。
- 米国では、2007 年に 13,157 人の乗員が雇用され、08 年は 10,650 人の雇用が予想される。
- 派遣会社の PARC では、7000 人のパイロットがエントリーしているようだ。
- 乗員不足への対策として会社・国は
 - (a) 乗員採用基準の緩和、(b) 乗務時間制限の抜本的見直し (c) 訓練体系の見直し (MPL・自宅学習、カリキュラム)、(d) Ab-Initio (自社養成) 施設の拡充を図る方向に動く。
- 中東、インド、中国の航空需要は高い成長率を続けている。一方で米国・欧州は大きく需要が伸びない見込み（ある程度、市場が成熟しているため）。



IFALPA の取り組み SRG

産業の Globalization が我々にもたらす影響・問題を分析し、解決方法を探るため、SRG(Strategic Review Group)が立ち上がっている。9つのプロジェクトが進行中だが、大きく分類すると3つ。
訓練・教育 対外活動 世界中の乗員を組織化 に関して様々な取り組みをしている。

航空産業の 2007 年はどうであったか

2007 年の航空輸送産業全体での収益は 56 億ドルと見られ、経済の混乱 - 米国経済の先行き不安、燃油費などの要因により 2008 年は 45 億ドル前後になると予想される。特に、燃油費に関しては、航空産業全体で 1360 億ドル (2007 年) に達し、対 06 年では 22% 増となっている。燃油費は航空会社の経費の 3 割を占めるほどである。

2007 年の各地域での収支

| | |
|-----------|---|
| 欧州 | 2007 年の全体収益は 21 億ドル (対前年+16.7%)。路便は 5.1% 増 (対 06 年)、L/F は 77.1% (対 06 年+0.7%)。 |
| 北米 | 2007 年の全体収益は 28 億ドル (2006 年 27 億ドル)。LCC (Low Cost Carrier) の破綻が相次いでいる。燃油費の高騰、停滞する経済成長がダウンサイジング、人件費・燃油サーチャージ見直しなどで対処。 |
| アジア・オセアニア | 2007 年の全体収益は 9 億ドル (2006 年: 収益 8 億ドル)。国際旅客は 4.8% 増。2008 年度の見通しも 07 年度並。 |
| 南米 | 2007 年の推定は、1 億ドルの損益 (06 年は 2 億ドル)。ブラジルのインフラ整備の問題、メキシコでの競争激化と再編などが注目される。 |
| 中東・アフリカ | 中東では 2007 年に 3 億ドルの収益 (06 年は 2 億ドル)。順調な経済動向と、原油による利潤、輸送量・路線の増加。 アフリカでは 2006・07 年ともに凡そ 4 億ドルの損失であり、収支改善の為には、安全性向上が急務。国際旅客は 8% の成長率。 |

メヒカーナ航空 CEO プレゼンテーション

Mexicana CEO: Manuel Borja Chico

メヒカーナ航空の社長がこの Seminar で、航空業界におけるグローバルゼーションについて講演しました。

(以下要旨)

「規制緩和により供給量が増え、また燃油費の高騰により世界中でエアラインは存続を危ぶまれるレベルに来ている。人件費よりも燃油費が経営の問題と捉えている。中国、インド等の台頭により、経済地図が 20 年間後には塗りかわっている可能性がある。グローバルゼーションは後戻りすることは出来ず、弱くなった企業の吸収合併は避けられない。IT など新しい技術を駆使して、効率的で利益を上げる構造に変えて行かなければならない。」

最後に、働く者と一緒に未来を共有したいと述べました。

以上